

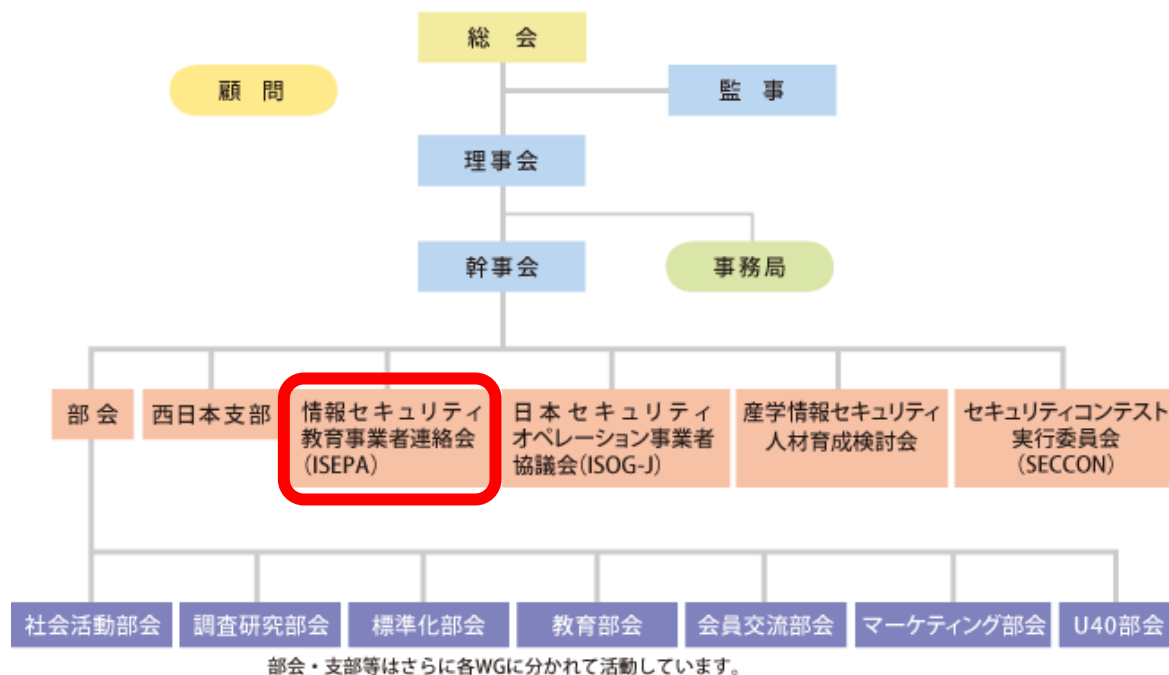
組織における人材育成の課題と 人材エコシステムの取り組み

2018/2/27

ISEPA代表 持田 啓司

ISEPAの位置づけ

- JNSAの中に組織し、サイバーセキュリティに関する教育を提供している事業者および、人材の提供および活用を行う組織と連携して人材の活躍の場を広げることで、日本全体のサイバーセキュリティ向上に寄与する。
- 教育事業者・資格認定団体19団体で組織。
- 昨年夏にJTAG構想を検討開始。現在47組織が参加。

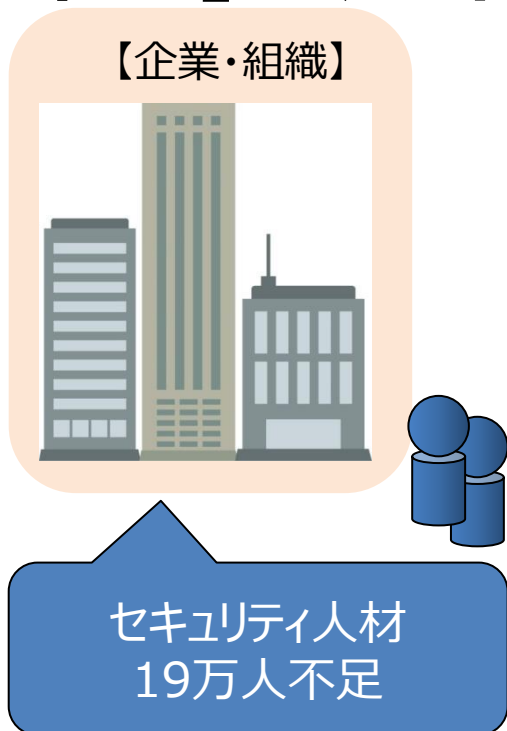


人材エコシステム(JTAG)の構想

- 国内関係事業者(J)がTAGを組み、セキュリティ人材の適切な育成、適職認定を行うことで、必要セキュリティ業務への適材適所の配置を行う。

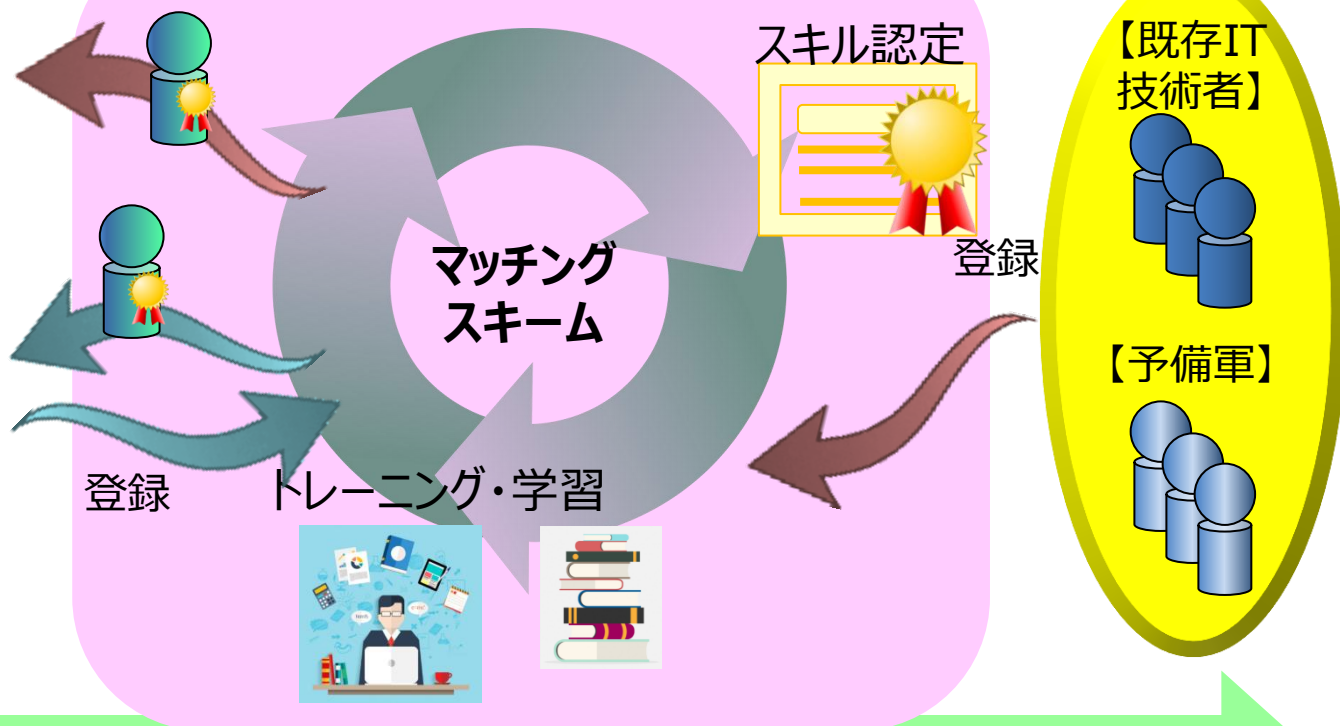


「需要」の明確化



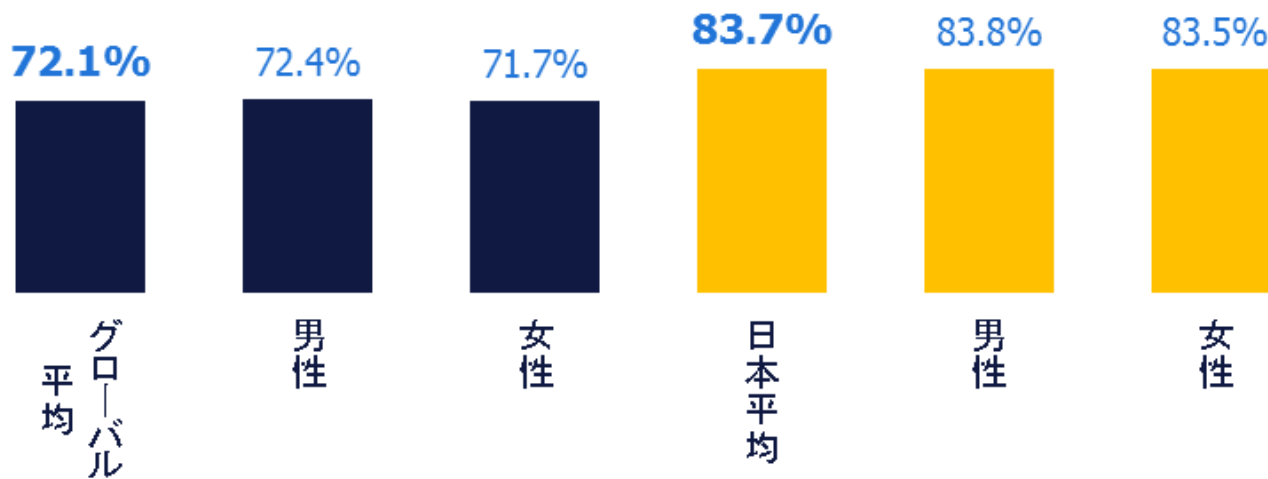
需要を充たす「供給」

【キャリアデザインのための課題部分】



トレーニングの必要性意識

Q.常に遅れをとらないためには、さらにトレーニングや教育が必要であると感じる



あまり大差なし

出典：2017/11/17 世界33の国と地域で実施する労働者意識調査「ランスタッド・ワークモニター」の2017年第3四半期の結果

スキルアップへの意識差

雇用主から何らかの
スキルアップ支援がある



グローバル
平均,
66.0%

スキルアップのために自己負担で
実施しようと思っていることがある



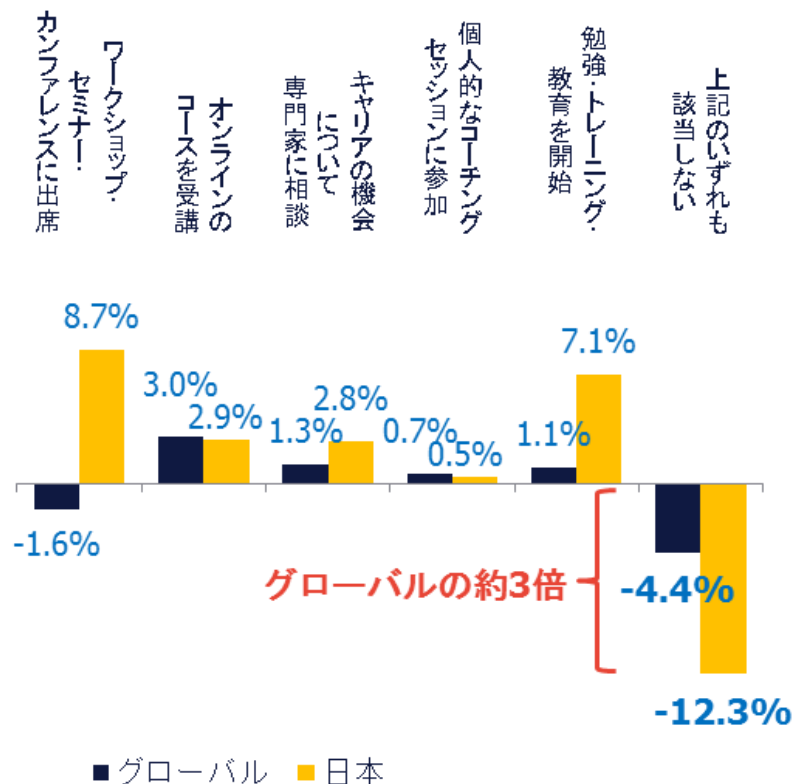
グローバル
平均,
67.7%



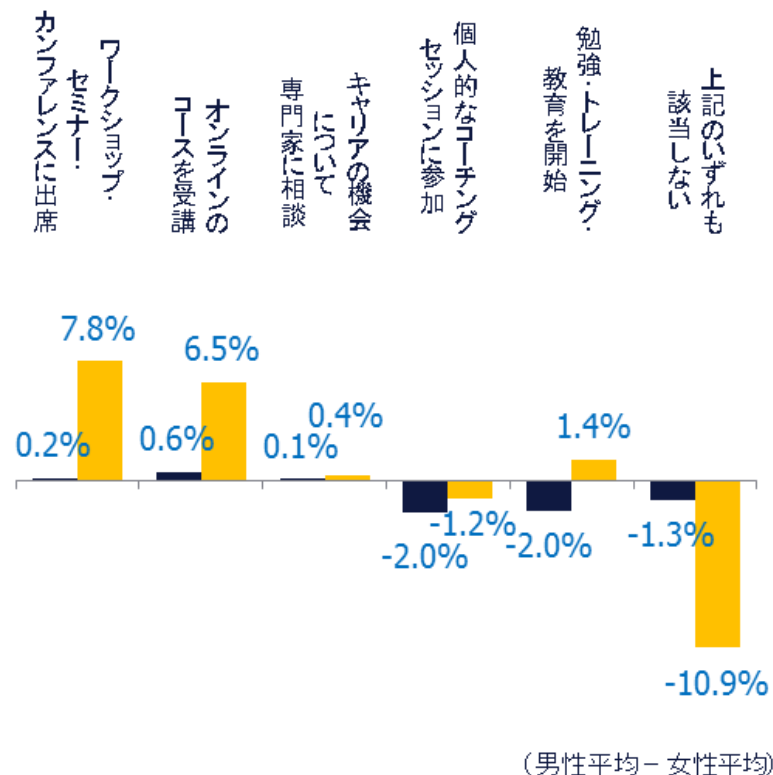
出典: 2017/11/17 世界33の国と地域で実施する労働者意識調査
「ランスタッド・ワークモニター」の2017年第3四半期の結果

会社・個人ともに投資意欲は低い

Q.以下のうち、雇用主が提供し費用を負担していることはどれですか？

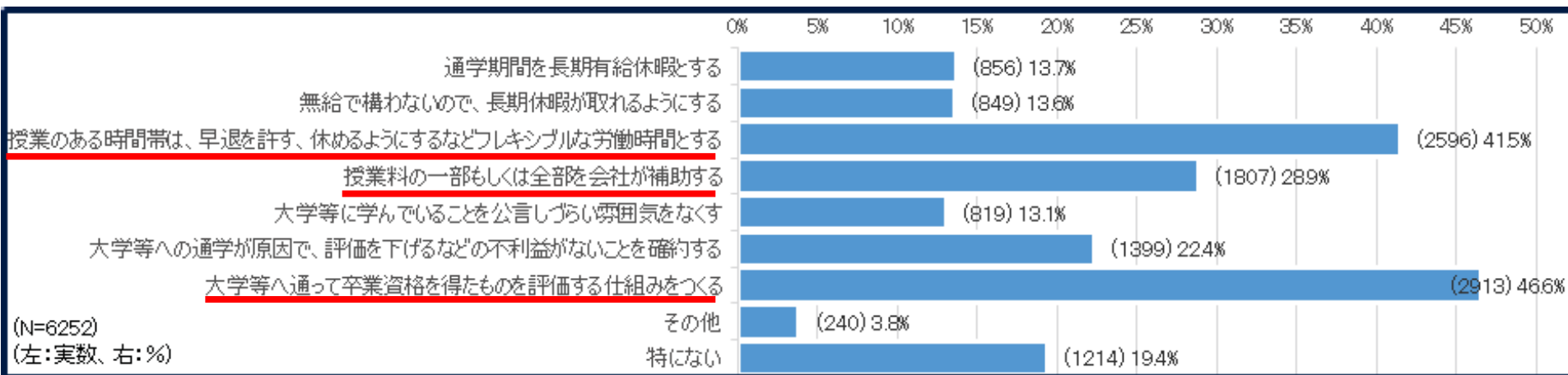


Q.以下のうち、自分で手配し、費用を負担しようと思うことはどれですか？



出典: 2017/11/17 世界33の国と地域で実施する労働者意識調査「ランスタッド・ワークモニター」の2017年第3四半期の結果

社会人学生の在学中の職場への希望

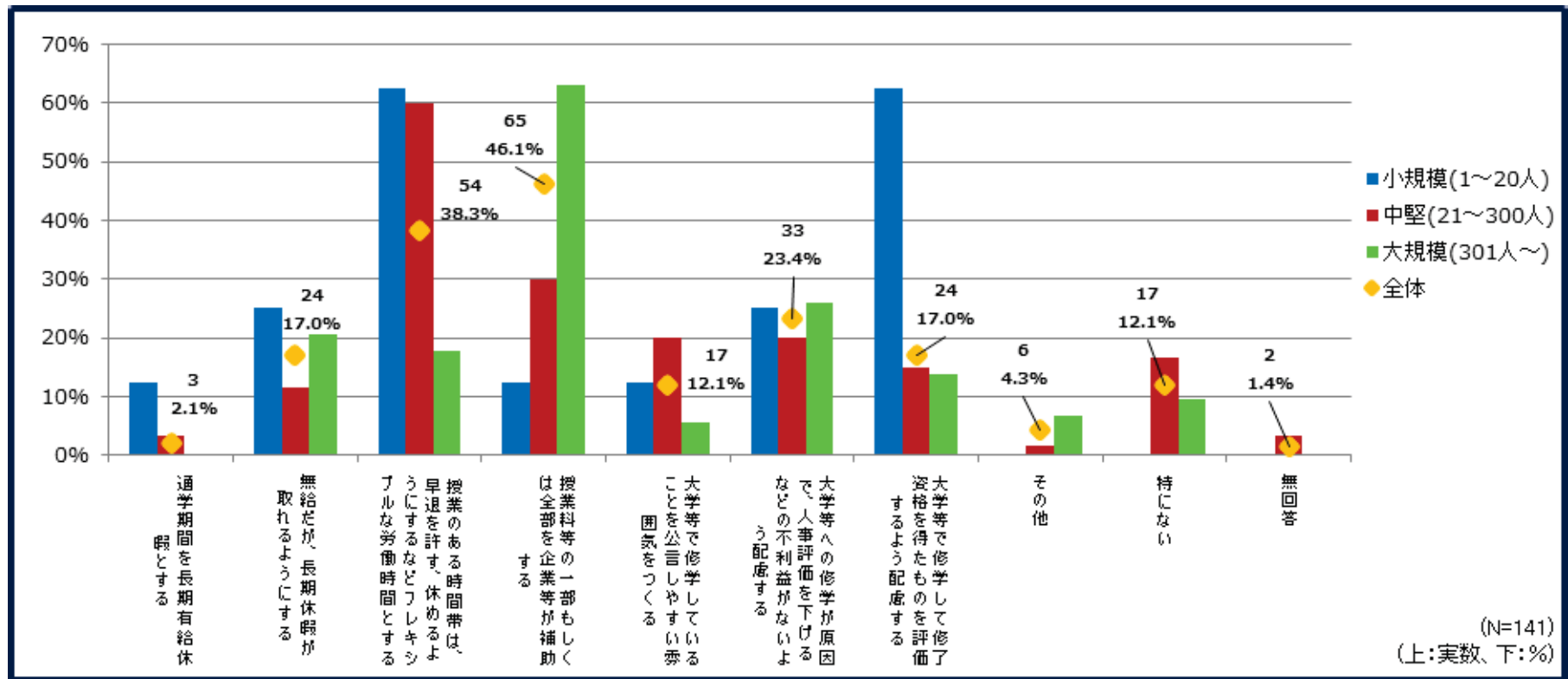


1位 (46.6%) : 卒業資格に対する評価する仕組み

2位 (41.5%) : フレキシブルな労働時間制

3位 (28.9%) : 授業料の補助

修学支援に関する企業と個人のギャップ



1位 (46.1%) : 授業料の補助 (3位)

2位 (38.3%) : フレキシブルな労働時間制 (2位)

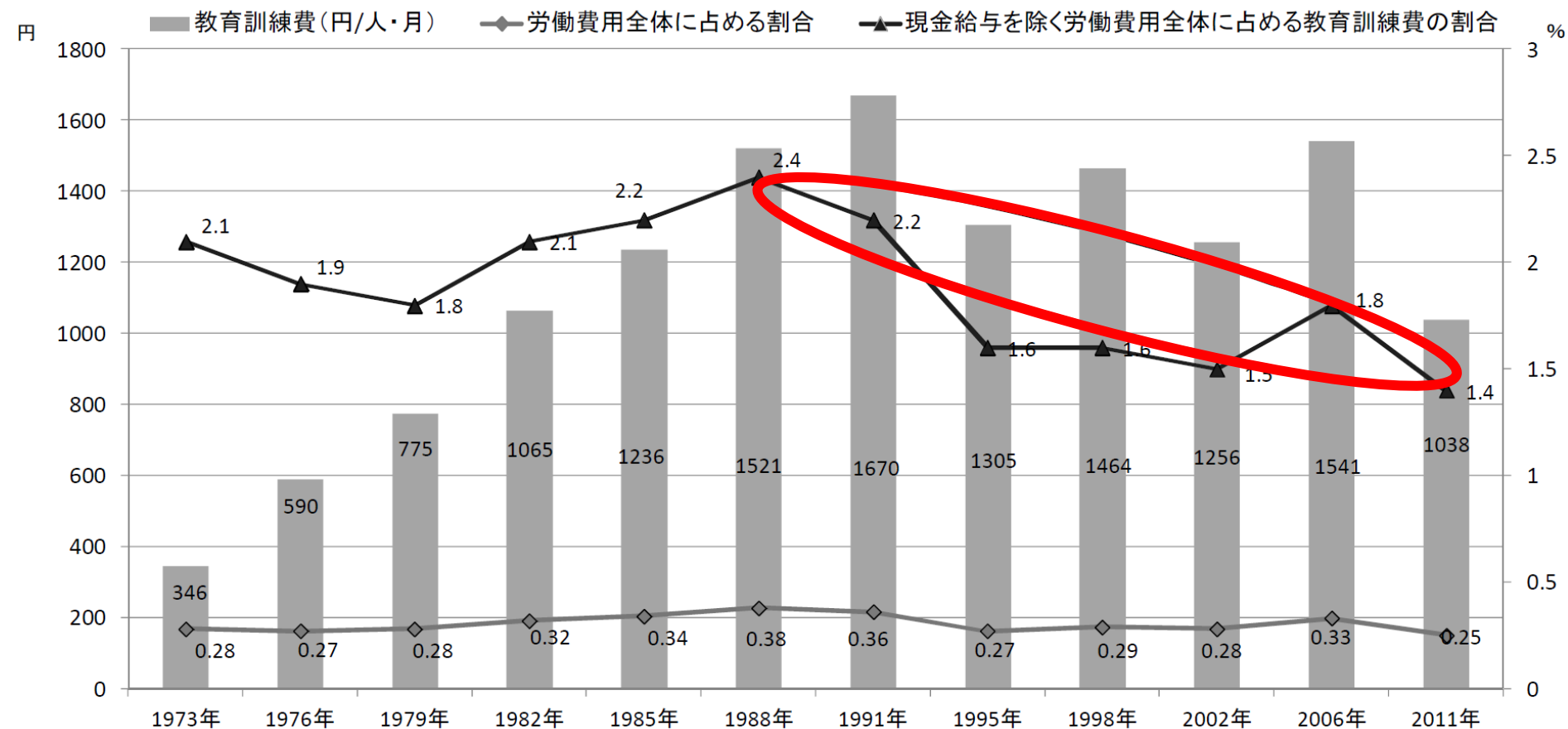
3位 (23.4%) : 人事評価への不利益のないよう配慮 (4位)

同率4位 (17.0%) : 卒業資格に対する評価する仕組み (1位)

企業による支援状況

出典: 2016年3月「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究」(文部科学省)

教育訓練費の推移



出典: 2016/3/29 職業能力開発の現状について(厚生労働省)

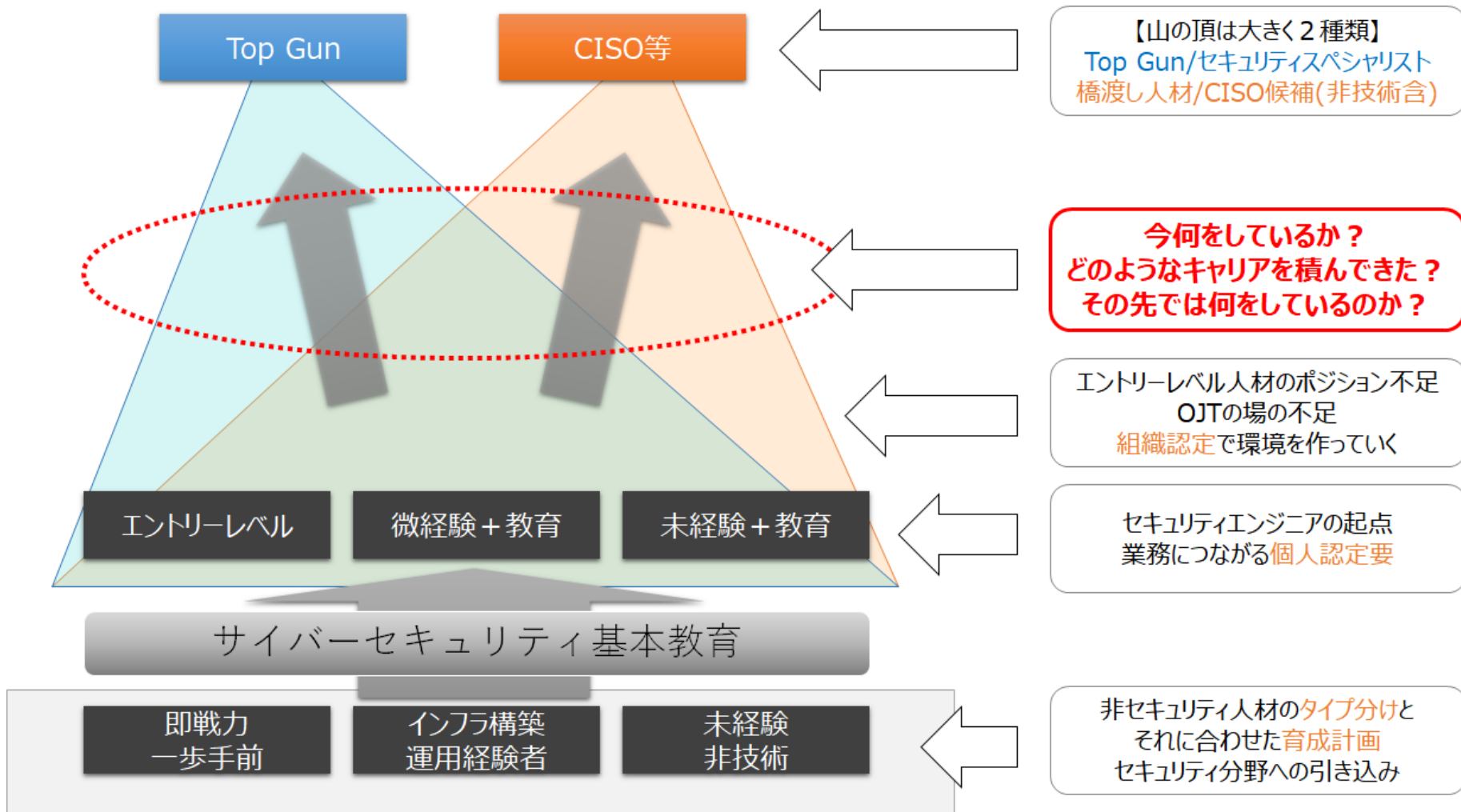
情報セキュリティ人材に関する課題

- 個人：自己投資によるスキルアップ意欲向上
 - － 将来的なキャリアの見える化（承認欲求）
 - － 報酬アップの期待
- 企業：人的資産への投資意欲向上
 - － 高効率・高スキルに挑戦する人材の囲い込み
 - － 情報セキュリティ業務に関する組織内での役割明確化
 - － 従業員の情報セキュリティに関するスキル明確化・評価

課題解消のための当面の活動

- 企業内のセキュリティ関連スタッフの調査
(主にユーザー企業、非技術スタッフ含む)
 - 役割別に経験や学んでおくことなど調査
 - 担当責任者に指名されてから困らないために
 - キャリアパスではなく、多くの組織で使えるキャリアデザインの参考書的位置づけ
- 情報セキュリティ業務ごとの必要スキルのガイドライン検討
 - 配置転換や職場内スキルアップのための参考ガイド
 - 将来的に、JNSA活動として公的認定を検討

セキュリティ関連スタッフの調査



活動手順

企業内のセキュリティ関連スタッフの調査

ヒヤリング
内容検討

ヒヤリング
実施

ヒヤリング
内容の分析整理

調査報告書
とりまとめ

調査報告書
公開

どちらかというと
ユーザー企業向け

業務ごとの必要スキルのガイドライン検討

対象業務検討

評価項目
種別検討

評価項目ごとの
明細調査検討

評価項目ごとの
評価の重みづけ検討

ガイドライン
とりまとめ

ガイドライン
公開

情報セキュリティを
業務として行う
職種がある企業向け

IT人材のセキュリティシフトトライアル

- ① 如何にして短期間で、必要とされる業務に対して多数のセキュリティ人材を輩出できるか？
 - 市場のニーズを的確に把握
 - ITスキルがある既存人材をシフト
 - 体系立てた中期的な教育プランで効率化
 - 実業務でも関連したOJT実施で速成
 - 本人のモチベーションが上がるアプローチ

- ② 人材サービス事業者と教育提供事業者のコラボで、その仕組みづくりをトライアル企画

一緒に活動しませんか？

- ご興味ある活動へのご参加
 - 本日お話しした二つの活動のほか、ご興味ある検討事項があれば検討します。
- 参加方法
 - ご興味ある活動と、参加者氏名を記載し、以下連絡先まで送信ください。
- 参加の条件
 - 情報セキュリティ業務を行う人材の、育成や配置に関してご興味のある方
 - 議決等を行う際は、JNSA会員であること
- 連絡先
 - JTAG事務局(JNSA内)： jtag-sec@jnsa.org
 - ラック 持田・尾方、パソナテック 金田